

学校 教育 目標	☆自分らしさを大切にし、互いに思いやり認め合いながら共に伸びていく子どもの育成 『自分らしさを大切にする』 (知)自分で考え、自主的に活動し課題解決していく子を育てます。 (徳)生命を大切にし、自分のよいところを知り伸ばそうとする子を育てます。 (体)自らの生命を見つめ、健康な心と体をつくらうとする子を育てます。 『互いに思いやり認め合う』 (公)できることをすすんでやり、みんなの役に立とうとする子を育てます。 (関)互いに認め合い、人や地域とよりよくなかかわろうとする子を育てます。				
	学校 概要	創立 20 周年	学校長 加藤 雅司	副校長 藤村 和人	2 学期制
児童生徒数: 459 人		主な関係校: 南戸塚小 南戸塚中			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	南戸塚中 南戸塚小 下郷小	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
	○協力し、粘り強く問題解決する力 ○言語能力 ○自己肯定感・自己有用感の醸成	他の人や社会に役立つ人を目指して、 主体的に行動し、たくましく生きる子ども 「素直で、協調性がある特長を生かし、地域社会との協働活動を取り入れなが ら、自分の力を他の人や地域社会に役立てようとする気持ちを育みたい。基礎 的・基本的な資質・能力(スキル)を養いつつ、継続してじっくり粘り強く取り組むこ とができる力を育てたい。自分の学びは自分でつくる(主体的学習)、自分の学校 は自分たちでつくる(自治意識)という自我意識を育てたい。」

中期 取組 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教職員の創意と協力により、活気と魅力ある学校づくりを推進します。</li> <li>○児童が自分自身の大切さに気付き、自他の生命を尊重し、豊かな心を持つことができるよう指導します。</li> <li>○児童が、よく考え、主体的に学習する力を身につけるように指導します。</li> <li>○粘り強く課題解決をしていく力を育てます。</li> <li>○あらゆる教育活動を通し、児童の好ましい人間関係を築きます。</li> <li>○保護者・地域の人々の思いや願いを積極的に学校教育に生かし、開かれた学校づくりを進めます。</li> </ul>
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①言語活動の充実を図り、分かる楽しい授業を通して、主体的に学ぶ意欲を育てます。②国語科を重点に、授業を通して思考力や表現力を育て、「豊かな表現」を引き出します。③スキルタイムや読書タイムを継続して行い、基礎的な学力と学習の習慣を定着させます。
担当 評価	
豊かな心	①道徳を人権教育の要とし、授業の充実のため、道徳の授業公開を行います。②「いいところみつけ」を各行事において継続的に実施することで、子どもたちが心を通わせられる雰囲気を作ります。③主体性を育み、自己肯定感を向上させるため異学年集団活動など体験活動を充実させます。
担当 人権	
健やかな体	①家庭との連携を図り児童が自分自身の健康について考えられるようにします。また、生活習慣の見直しとともに運動に親しむ資質を育てます。②一校一実践運動に「縄跳び」を取り上げ、長縄大会を通して体力の向上に励みます。③栄養教諭と連携しながら食育に関する授業を行います。
担当 体育部	
児童・生徒指導	①あいさつを目標に取り組み、校内だけでなく校外や家庭でもあいさつができるように働きかけていきます。②「下郷小学校のやくそく」を全職員で共通理解し、児童が意識して生活できるように支援します。③縦割り活動を充実させ、子ども同士のかかわりが豊かになるように支援します。
担当 児童指導	
特別支援教育	①子どもの抱える今日的な課題について校内研修を行い、職員で共通理解を図り、研鑽を深めます。②特別支援教室を活用し、個に応じた学習指導・支援をします。③必要に応じスクールカウンセラーや外部機関とも連携を密にし、より良い支援の在り方を考え、実践していきます。
担当 児童指導	
保健管理	①月一回の保健指導や保健教育を充実させ、全校で健康づくりに取り組みます。②学校保健委員会を中心に健やかな体、健やかな心の育成ができるよう保護者を含め取り組みます。③保健だより等で家庭へ情報を発信したり、保健的な週間を設定したりして、自ら進んで健康づくりを実践します。
担当 保健	
	b7
担当	
	b8
担当	
いじめへの対応	①子ども一人一人との日常からのコミュニケーションを大切にし、未然防止に努めます。②月1回定期的にいじめ防止委員会を実施し、事実や経過の確認を丁寧に行います。③児童からいじめ防止アンケートとったり、職員間でいじめの防止研修を行ったりし、些細な変化を見逃さない体制作りをします。
担当 児童支援専任	
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	①日常的に授業を見せ合うことを通して、授業改善、児童指導双方の実践力を高めていきます。②メンターチームで年間指導計画をたて個々の職員がそれぞれの段階において成長することをめざし、情報交換や意見交換をします。③ミラ임을活用したり会議時間の短縮を行ったりして、子どもの育成に関わる時間を確保します。
担当 教務・メンター	